

ぐるめ散歩

パン・弁当

COU COU

岩戸児童センター近くの住宅地で主婦が自宅を改装して始めた手作りパンの店。現在は店主の母が作る日替わり弁当も人気だ。

店主の朝倉陽子さん(42)は別の仕事をしていて、育児との両立に悩み、独学でパン作りを習得、地域の人においしくて安心なパンを提供しようと平成22年に開業した。自身がアトピーだったため、食の安全に関する知識を生かして、友人が栽培している無農薬の小麦粉を使うほか、具材も安心な素



朝倉陽子さん(左)とみどりさん

安心安全な素材使ったパンと弁当 娘と母が二人三脚で営む手作りの店



材を使っている。パンは火・金・土曜日にメインの天然酵母食パンのほか、シナモンバターロール、メロンパン、チョコマンゴーフランスなど約10種の菓子パンを日替わりで販売している。また、チーズや季節の果物を使ったマフィンも人気。



ワンコイン弁当

☎6873-4119 岩戸南2-27-14 営業時間=午前10時30分~売り切れ終了 営業日:パン=火・金・土曜日、弁当=月・水・木



くに転居してきた6年前から手作り感のある安心な食を提供したいと始めた。弁当は1種類で、月曜日は季節野菜とエビのかき揚げ丼、水・木曜日は旬の食材を使った日替わり弁当を提供している。弁当は毎回20食を販売するが、一人暮らしの高齢者などに人気で、売り切れることも多い。脚本家もしている陽子さんは「家族に出すのと同じ気持ちでパンや弁当を作っています。パン屋の日常をつづったお店のfacebookを見て、来店される人も多く、励みになります」と話している。

おすすめMENU

パン=①Wチョコクロワッサン¥230②メロンパン¥150③チョコマンゴーフランス¥180④マフィン各¥190⑤抹茶メロンパン¥160⑥シナモンバターロール¥190⑦雑穀食パン¥390⑧天然酵母食パン¥390/ワンコイン弁当¥500(税込み)

狛江青年会議所がロケット教室

狛江青年会議所(秋元遥理事長)が「敬老の日」の9月18日(日)に狛江第一中学校で「こどもロケット体験教室」を開催した。今年2月に狛江第四中学校で行われたロケット教室を見た同会議所のメンバーが、子どもたちの宇宙への関心を高めようと、四中の教室を指導した市地域学校連携支援マネージャーの石谷清隆さんの協力を得て開催した。当初は5月の予定だったが、雨天で延期していた。



ロケットの打ち上げ

この日は、小学3~6年生の児童など40人が参加、全長38cmのロケットのキットを組み立てた後、校庭で打ち上げた。子どもたちは大きな音と煙を上げて上昇するロケットを歓声を上げて見守っていた。

企画した長島理監事は「定員の2倍の申し込みがあり、見学者も多かったため、今後も続けたい」と話していた。



オリジナル合唱曲「虹をつなぐ」を披露

朗読劇やオリジナル合唱曲披露 平和フェスタ4年ぶり本格開催

「こまえ平和フェスタ2023」(こまえ平和フェスタ実行委員会主催、狛江市・狛江市教育委員会など後援)が9月3日(日)にエコルマホールで開催された。

平成17年から毎年夏に開かれてきたが、令和2年からコロナ禍で中止やオンライン開催を余儀なくされ、4年ぶりの本格的な開催となった。

世田谷区立砧中学校の卒業生が在校生に向けたメッセージ「平和の誓い」を朗読し、そのメッセージを元にしたオリジナル合唱曲「虹をつなぐ」をこまえ平和フェスタ合唱団と共に歌った。狛江国民学校(現・狛江第一小学校の前身)が焼失した昭和20年5月の空襲を取り上げた紙芝居をモチーフにした朗読劇「戦争と狛江の子ども達」の上演、原水爆禁止日本協議会理事の前川史朗さんの講演など充実した内容で、訪れた人たちは平和の大切さをかみしめていた。

ふらっとなんぶでフェス Eスポーツなどに興じる

今年3月にオープンした多世代・多機能型交流拠点「ふらっとなんぶ」(駒井町3-7-1 ☎6774-4160)が、8月27日(日)に「ふら



小学生と高齢者がテレビゲームで対戦

フェス2023」を開催、地域の人たちが交流を楽しんでいた。

幅広い市民が気軽に立ち寄って地域の人と出会う居場所にしてもらうきっかけにしようと開催した。健康測定会、ネイルケア、ポケモンカード体験、ヨガ、ハンドマッサージ、フィンガーペイントなど幅広い年代で楽しめる企画が行われた。人気を呼んだのがEスポーツ交流会。小学生と高齢者がボーリングやテニスなどのテレビゲームで対戦。参加者は画面を見つめながら年齢の壁を越えて歓声をあげていた。また、家庭菜園で収穫して余ったナス、空心菜、カボスなどを希望者に分ける「おすそ分け会」も好評だった。

狛江でハワイを楽しもう 8・9日にえきまえ広場で

狛江でハワイの音楽や踊り、食べ物などを楽しむ「コマエdeハワイ」(コマエdeハワイ実行委員会主催、狛江市など後援)が8日(日)・9日(月)(スポーツの日)の午前11時~午後6時に狛江えきまえ広場で初めて開かれる。会場では、今年8月のマウイ島火災への救援金の呼びかけも行う。

市内にフラダンスやウクレレ、ハワイアンバンドなどハワイにちなんだ多くの団体があることから、その連携を図るとともに、狛江とハワイのつながりを創ろうと狛江ラジオ放送(コマラジ)役員の名古屋奨さんがフラダンスの団体などに呼びかけて4月に実行委員会を結成し準備を進めてきた。

当日は、えきまえ広場のステージでフラダンスやハワイアンバン

ド30団体が出演するほか、狛江駅北口交通広場でウクレレのグループ15団体が演奏する。また、タコライス、ガーリックシュリンプなどのハワイ料理とケーキに加え、市内のブルワリーがハワイをイメージして醸造したクラフトビールを販売。ハワイの衣類やアクセサリーのショップ、レイ作りのワークショップもある。

また、一過性のイベントで終わらせず、今後は生産者の協力でレイに使う植物ティーリーの栽培なども行いたいと夢を膨らませている。

問い合わせ ☎080-3312-7583 名古屋さん。

狛江財地緑地保全地区の看板 2代目は伝統工法で製作

狛江財地緑地特別緑地保全地区の入口にある老朽化した看板の更新に、同地区市民の会など市民がプロジェクトを作って取り組み、2代目に掛け替えられた。

多摩川の柳で作った初代の看板が腐食したため、市民の会が更新を計画。呼びかけに応じた市内在住のデザイナー飯野健一さん、市内で寝具店を営む柿渋作家の白井千雄さんらの協力を得てプロジェクトをスタートさせた。7月に3回開いたワークショップで小学生らが泉龍寺境内の枯れた赤松を使った幅180cm、高さ80cmの板に腐食を防ぐ効果がある柿渋を塗った。

9月9日(日)に催された披露式典では市民の会の会員などが出席、泉龍寺前住職の菅原昭英さんらは「伝統的な工法を使い、地産地消で保全地区にふさわしい看板ができて良かった」と喜んでた。



2代目の看板